

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第92回 「子どもの遊びの大切さ」

こころの相談員 小林 節子

長い夏休み、子どもたちはどこでどんな遊びをしているのでしょうか。宿題があったり、安心して子どもが遊べる場所がなかったりと、なかなか子どもの遊びを大人が保障してやれないことが残念です。ただ、少なくとも小学生ぐらいまでは、子どもにとって「遊び」がいろいろな力を育てるのだということをお伝えしたいと思います。

まず自発的な遊びの中で「工夫する、考える、集中する、困難なことに挑戦する力」が育ちます。また体を使う遊びの中で、「五感以外の平衡感覚、姿勢や体の動きをコントロールする力、自分の体をイメージする力」などが身につきます。その上友だちとかかわって遊ぶ中で「ルールを守る、順番を守る、相手の立場や気持ちを考える力」などの社会性も育ちます。幼児期、学童期の子どもにとって、遊びこそが学びの原点といわれるゆえんです。幼いときに、どれだけ真剣に遊びに夢中になれる時間を持てたかは、その人の一生の財産となりうるのです。

夏休み、あちこちの遊園地に出かけるのも楽しいでしょうが、複数の家族が一緒になって公園に出かけて子どもを遊ばせたり、アスレチックのように自分で体を使って遊べるようなところに出かけるのもいいかもしれませんね。

※小林相談員は、あさひ園・カンガルーあさひなどで相談活動を行っています。

7月活動報告

あさひ園 七夕集会 7月5日(金)

先生から、七夕のお話を聞きました。

短冊に書いた願いが叶うように、『たなばた』の歌を元気いっぱいに歌いました

